

先に日本選手の活躍編のレポートをお伝えしたが、今回はアテネに行くところから。

アテネへ

ハンガリー クロアチア イタリアと移動してきた。

イタリアからの船が着く街がギリシャで 3 番目に大きいパトラスという都市である。ここは典型的な商業都市で、観光客は船に乗る人以外はほとんどいない。

これまでいろいろな情報を見聞きするに、どうもやはりアテネで安い宿を捜すのは難しい様だ。全くないという訳ではないとも聞いた。ただ、一番安いケースで、27 ユーロ(3730 円)、かなり苦勞して探したという話だったから、私の場合、大きな荷物を抱えて右往左往し、挙げ句の果てに 50 ユーロ程度の宿に落ち着く、ということにもなりかねない。オリンピックのチケット代を考えると、それはつらい。

そこで、このパトラスという街に拠点を置くことにした。ここの宿は 1 泊 10 ユーロ(1380 円)と割安である。

このパトラスから朝 6 時の電車に乗り、4 時間弱かけてアテネの主要駅に着くと、これが本当にアテネ駅? というほど寂れたものだった。今までのヨーロッパの首都にある駅の中で一番規模が小さく、人も少ない。それどころかオリンピックの客など誰もいないぞ。

ただ、インフォメーションだけはきちんと整備されていて、駅には駅員とボランティアの通訳の女性がいる。早速『オリンピックが見たいのだけど』と言うとメトロの Panepistimio という駅へ行くように指示された。

オリンピックのチケットを持っていると、メトロ等の公共機関が無料になる、という噂を聞いていたが、それは事実でオリンピックのチケットを買いに行く一回目だけ、0.7 ユーロ(95 円)を払い、インフォメーションの案内に従ってアテネ中心部のチケット売り場を目指す。

その駅を出ると、直ぐにチケット売り場が見つかった。というのも、すごいたくさんの人が並んでいるのである。

チケットの販売は 10 時から。私がここに到着したもの 10 時。既に長い行列。

そこから並び始めて 2 時間でようやくチケットが買える。何とんでも、その売り場はブースが 2 個しかない。そこへ 150 人からの人がいる。いろいろな競技のチケットを買い求めるのだった。

1 人に対し 1 分はかかっている。歩みはのろい。

私の後ろには賑やかな連中がいて、ダフ屋をからかっている。試しにダフ屋に聞くとチケットを何故か正規料金で売っている。テニスに至っては、窓口では既に売り切れにもかかわらず、



街の中心にあるチケットオフィス。見たい競技のチケットが買えない、あっても高い、やけに待たせるなどで殺気立つ場面も。

40ユーロのチケットを35ユーロで売ろうとしている。

これ、サギじゃないかと警戒した。もしくはギリシャ人しか入れないとか。

いきなりアテネについて、悪い輩に騙されるのはつらい。テニスのチケットは欲しかったが諦めることにした。

チケットを買えた人が、まだ並んでいるその賑やかな連中に見せている。私とその連中に『何のチケットだったの?』と聞くと、『どうもメトロのチケットしか買えなかったみたいよ』とジョークを飛ばす。しかし実はあまり笑えない。現に私の目の前人は二人とも、望みのチケットを買えず、2時間並んでも諦めていたのだ。

私の場合、1枚ではなくいろいろな競技のチケット買おうと思っているので、紙にたくさんの希望を書いていると、後ろの人から、『頼むからMAXで10分にしてくれよ』と懇願された。

体操、シンクロナイズドスイミング、テニス、サイクリング、ビーチバレー、トライアスロンをトップに挙げていたのだが、ことごとく売り切れだそう。その他の競技で興味がある野球、ハンドボール、ソフトボールはチケットが買えた。ホットした。

そしてオリンピックの花、アスレチックスは25日だけ、しかも40、60ユーロのチケットは売り切れで、残っているのは90ユーロ(12,420円)だけ。躊躇したが買う事にした。

しかし、2時間も並んでいたせいで、本日の野球、せっかくの台湾戦は終わってしまっていた(因みに日本のサヨナラ勝ち)。

実はこのチケット売り場に並んだのはとんだ間違いだったのだ。

各スタジアムでも、すべての競技が購入できたのだった。しかもほとんど並ばずに。

このチケット売り場を案内した駅のインフォメーションも恨めしいが、その事を知らずにこんな場所に延々と並ぶアテネ市民もどうかしている。

そしてこれだけ人が来る場所に、ブースが2つはないだろうよ、オリンピック委員会さん。

ハンドボール女子

中学も高校も、何故かハンドボール部が強かった。だから球技大会なんかでもハンドボールをやっていて、人通りのルールは何となく覚えていたので是非見たい競技の1つだった。

まだ予選である。チケットは10ユーロ(1380円)で2試合を見る事が出来る。

1試合目はフランス対アンゴラ、2試合目はギリシャ対ウクライナ。

フランス対アンゴラは、体力、作戦に勝るフランスが、アフリカの小国アンゴラをいじめる構図、という感じ。もちろんフランスの勝ち。ただ両国とも応援はほとんどなし。

一方、2試合目のギリシャ対ウクライナは、何時の間にこんなに客が、というほど混んで来て、



女子のハンドボール、ギリシャ対ウクライナ。美人の多いウクライナ、でも選手はすごく怖い感じ。

応援合戦も含めて楽しかった。

ウクライナのパワーがすごい。身長も高い。体もでかい。結局ウクライナがギリシャが圧倒して勝った。応援席のギリシャ人からも、こりゃ無理だな、という雰囲気を感じられた。

正規のチケット売り場では、売り切れ続出となっているが、会場ではたくさんの空席が目立つ。チケットがどこかにかなり余っているようだ。

さらに、このチケットの仕組みがよくない。2 試合見れるのは嬉しいのだが、人によっては目当ての試合が終わると、さっさと会場を出てしまう。もしくは最初の試合は見ない。

結果としてさらに空席が目立つ。価格を半分にして、1 試合だけにしてくれればもっとたくさんの人が楽しめるのに。

ホッケー

ハンドボールを見た後、近くにあるビーチバレーの会場に移動。

しかしチケットはやはり売り切れ。ダフ屋を探したがいなかった。ギリシャでも相当に人気が高い種目のようだ。

仕方なく、今日これからやるいろいろな競技のチケットの有無を聞いてみたが、各種目ともにだんだんと決勝が近づいてきたせいか、ほとんどが売り切れ。

重量挙げやレスリングはあったが興味無し。

ただホッケーがまだあるという。そこでバスで移動。

対戦は、イギリス対ドイツ。

ホッケーという競技を生で初めて見た。サッカーに似た競技だが、スティック?を使うだけにスピード感がある。

またすごい運動量。サッカーに引けを取らない。ボール(と呼ぶのかな?)のスピードも半端じゃない。ゴールの真後ろに陣取っていたが、よくもまあ、キーパーはあれだけ速く反応できるものだ后感心。

新しいスポーツを見ると、自分でもやってみたくなる。日本でホッケーをやるにはどうしたらいいんだろうなあ。



ドイツの応援がものすごい。見るだけで楽しい。結果は、ドイツ4対イギリス1で、ドイツの圧勝。

この試合が相当に盛り上がり、会場を出たのは 11 時過ぎ。もはやパトラスに帰る電車はない。野宿する場所を探す事に。

会場の案内係に聞くと、

『ここは警察が許可しないので駄目。あのトラムに乗って南に下れば海岸があるから』

というアドバイスももらってトラムに乗ってみる。

確かに海岸沿を走っている様だが、果たして野宿できるのか、う~ん、この辺はうるさそうだな、なんて考えていると終点に着いてしまった。仕方なく降りる。

終着駅の近くの港には、幾らでも寝る為の場所があった。もちろんコンクリートの床だが(さすがに係留している豪華船には入らなかった)。

きちんと整備されている港らしく、係留している船の為の水道があって、顔を洗い、歯を磨くことも出来た。

もっと悲惨なことになると思っていたが、まああの野宿生活である(夜中になって、蚊がたくさんで困ったけど)。

次の日、ソフト 野球 ソフト 女子マラソンを見終えた私は、アテネ駅 23 時発のパトラス行きに乗る為に駅へ急いだ(またもや走っている私)。

パトラスに着いたのは午前 3 時。宿に戻って寝たのが 4 時である。次の日はさすがにアテネに行けなかった。

パトラスで 1 日休養。早朝 6 時の電車に乗るのはもう辛かったので、次の 9 時の電車でアテネに行く事にした。

ところが切符が売り切れだという。アテネに向かう列車は 1 日に 8 本ぐらいある。その内 6 本がエクスプレスなのだが、そのエクスプレスには立ち席がないようだ。何てこった。

取りあえず、その次の 12 時の普通列車の切符を買い、密かに 9 時の列車に乗り込む。

列車が出発。5 分しないうちに車掌が来る。

『この切符は次の列車だよ、次の駅で降りなさい』とやけに冷たい。

14:30 からのハンドボールの試合にどうしても行かなきゃいけないんです、と情に訴えると共に、後輩にもらったアンチドーピング機構の帽子をさりげなく見せていると、特急料金を払えばそのまま乗って良いという事に。

『ただし、誰かが席に来たら空けなきゃいけないよ』と。

ところが結局は席は満席なんかではなかったのだった。そのおかげでずっと座れたが、ギリシャの鉄道会社、もっとしっかり考えてくれよ。

そもそもエクスプレスといいながら、山の手線ぐらいのスピードじゃんか。単線だからよく停まるし。

ハンドボール男子

再びハンドボールの会場へ。

ところがここでもハンドボールのチケットが売り切れ。

第一試合は韓国対ハンガリーで、第二試合が地元ギリシャ対クロアチアだったのだ。でもチケット売り場にはたくさんのダフ屋がいて定価の 15 ユーロ(2070 円)で買えた。しかし、何でいつも定価で売ってくれるんだろう。

試合は、ハンガリーが点を取れば、韓国がすかさず点を取るという接近戦。

後半まで、なかなか韓国はリードできなかったが、後半開始 10 分によやく逆転し、2 点差と

なる。

ガンバレ韓国。

ハンガリーの選手は、かなりのガタイのでかい選手を集めているのに対し、韓国は逆で、小粒が多いのが不思議だった。私よりも小さな選手が7人中3人もいる。

応援席では、何故かハンガリーの選手が無茶苦茶多かった。50%以上の人がハンガリーを応援していた。韓国の応援は3%くらい(アジアって辛い)。後の人たちは、次のギリシャ戦を待っているだけという具合。

会場にはためく国旗が如実にそれを表している。大きな国旗の数は韓国が5枚、一方ハンガリーは150枚ぐらい。どんどんと足を踏みならしたり、国歌を歌ったりで、その応援はものすごい。アジア人の私としては、せりながらもこのまま韓国に頑張ってもらいたかったが、後半20分に、韓国にとっては悪夢の10分が待っていた。

打つシュートは入らない、相手のシュートはかろうじて入る、反則を取られるのは常に韓国側という事が続く。

そしてアツという間に逆転され、じりじりと離されていく。

ゲームの流れというのは本当に恐ろしい。実力は互角ながら、結局25対30の大差でハンガリーの勝ち。

会場を出ると、ハンガリーサポーターによるお祭りの様な盛り上がり。場所が違えば、反政府デモかと思うほどの熱狂ぶり。何だかあの盛り上がり方うらやましいぜ。



韓国に勝ち、会場の外でさらに盛りあがっているハンガリー応援団。こんなに盛り上がるなんてうらやましい。

アスレチックス(陸上)

クロアチア対ギリシャのハンドボールも同じチケットで見れるのだが、陸上の方が大事なので移動することに。会場と会場を結ぶバスで1本。

ただ数十分は移動するほどの遠い会場である。

そしてそこが Athenes Olympic Sports Complex だ。さすがメイン会場だけあって立派なスタジアムと周辺施設がある。

時間があつたのでこのスポーツコンプレックスを散策することに。

大きなオリンピックショップがあつた。まったくすごい商業主義である。

Tシャツごときが40ユーロ(5520円)と信じられないほど高かったので何も買えない。

バッジでさえ7ユーロ(966円)である。



オリンピックのメイン会場。大型のオリンピックグッズのお店やスポンサーのお店が並ぶ。

ようやく6時半になり、競技場のゲートが開く。

会場に入るとすごいきれいなスタジアムで驚いた。さすがオリンピックをやるだけある。というか、その為に作ったんだろうな、きっと。

7時半になり競技開始。まずは男子槍投げ、男子幅跳び、女子棒高跳びが始まった。

陸上競技はいろいろな種目が同時並行で始まるのが面白い。

これからスタートという時に、他の競技で良い記録が出て、観客がどっと沸くなんてこともあって、どこまでメンタルなコントロールができるか、集中できるかが重要みたいだ。

400メートルハードル。この日、唯一出場の日本人、為末選手。

スタートは悪くなかったが、1つめのハードルを越えた時点で他の選手に遅れた。何だかよく分からないが少し良くない感じ。

風の影響かもしれない。この日はとても強い横風が吹いていて、いつもは暑い夜なのに、むしろ寒いくらいだった。それでも横風なので電光掲示板に表示される風は【+0.5】程度である。

為末選手は、徐々にスピードをあげていって最後の方ではかなり追いつけた。

がしかし結局は8人中で3番。トータルでは10番となり、零秒22の差で決勝に進めなかった。ハードル競技というのは、ひたすら走る100メートル走や200メートル走と違い、ずいぶんと繊細で難しいみたいだ。どの選手も簡単に飛び越えているが、ぎりぎりを跳んでいるように見える。選手によっては何台目かでハードルを倒してしまい。バランスを崩したまま次のハードルも倒して棄権する選手もいた。それどころか、選手がハードルで転んで隣の選手と接触、その選手も転んでしまうというケースがあった。

でも勝負には一切考慮されない。問答無用。他の選手の影響が嫌なら、スタート時点から先頭を走れ、という勝負の厳しさがあるようだった。

3000メートル障害。

これはハードルだけではなく、ハードルの下に張った水を飛び越えるコーナーがある。そのプールの長さは5メートルくらいあるので、当然選手は水をバシャバシャやる。これがこのレースの特徴のようで、また映像的にも映えるのでカメラマンがたくさんそのプールに集まっていた。

球技と違い陸上競技は、本当に黒人が多い。アメリカの黒人もさることながら、ケニア、キューバ、バハマ、ジャマイカなどなど。ジャマイカなどは、電光掲示板に【JAM】と表示される。私の席からは掲示板がとても遠いので、一瞬【JPN】に見えてしまうのだが、常にジャマイカ人が競技していてがっかりするのだった。

このレース勝ったのはケニア、2位もケニア、3位もケニア。前半から先頭集団でレースを引っ



満員御礼の競技場。約4万5千人。写真は、男子200メートルのセミアイナル。

張る3人。圧倒的な強さ。もう観客席総立ちで、ほぼ全員がケニアを応援していた。そしてワン・ツー・スリーフィニッシュ。感動的だった。

そしてこの日、最も注目を集め、そして私も楽しんだのが、女子棒高跳びである。

棒高跳びという競技はすごく時間がかかるみたいだ。まず競技開始の7時半から予選を始めて、この日終わったのが零時10分。優勝したロシアの選手は5時間近くも会場にいた訳で、これもすごい精神力と体力が必要だろう。

決勝に進むには4m20cmを飛ぶ必要がある。オリンピックレコード(OR)は4m70cm、ワールドレコードに至っては4m90cmである。しかし4m20cmだってすごい。この世の誰がさらに70cmも高く跳んだらだろうという感じで、4m20cmをクリアするのも各選手ともにたいへんそうだった。

実は私の席は、この棒高跳びが一番よく見える場所なのだった。

その反面、走る競技のゴールからは遠い。また槍投げの選手など米粒くらい。まして走り幅跳びに至っては、ほとんど選手が確認できないという場所。それだけスタジアムが広いからなのだが、よりによって棒高跳びか、と最初は残念に思っていたのだが、いやいやこの日最大のドラマがあったのだ。

他の競技が進んでいる時も、女子棒高跳びは淡々と進む。

徐々に脱落する選手が出て、最後の最後にロシア勢の一騎打ちとなった。

4m65cm、4m70cm、と息詰まる戦い。その時点で、既にORに届いている。電光掲示板には派手にその案内が出て、その度に会場が盛り上がる。

結局一人の選手が4m75cm、4m80cmを跳び、もう一人の選手はこれを両方とも飛ばすにパスした(棒高跳びでは通常3回のトライが許されているが、パスすると次ぎはその回数が減る)。そして4m85cmで一発勝負を挑む作戦を選ぶ。

一方、それまで順調に跳んできた選手は、全身をバスタオルで覆い、見ざる言わざる聞かざる状態で集中している。コールが掛かると、おもむろに立ち上がりチャレンジ。そして一発で4m85cmを跳び、またもや新しいORを出す。

一方パスし続けた選手は、貴重な一回を失敗。その時点で跳んだ選手のゴールドメダル確定。観客の大声援を受ける。

実はこの時点でもう午前零時。

他の競技は全て終了。でもほとんどの観客が残っている。もう競争相手がいないので、この段階で終えても良いのだが、彼女は4m91cmの新WRに挑むことにしたようだ。残っている約4万人の会場の視線を一点に集める。

そしてこれを一発でクリア。会場が揺れるばかりにどよめき、歓声をあげた。

いやぁ、全くすごい。

つづく